

平成23年 3月 定例会（第1回）-03月18日-04号

4番（小川義昭君） ただいま議題となっております議案第10号平成23年度白山市一般会計予算を初めとする全議案について、賛成の立場から討論を行います。

今、我が国の経済は、極めて穏やかな景気回復に入っていたものの、3月11日、三陸沖を震源とする世界最大級の巨大地震、東北地方太平洋沖地震が発生し、東北地方に未曾有の被害が生じております。今後、この震災による経済状況の悪化が懸念される中ではありますが、国においては復興対策に万全な措置を講ずるとともに、国内では経済対策の着実な推進を図り、先行きの不透明感が強まり、依然厳しい雇用対策に重点を置いた予算編成、デフレ脱却と雇用を起点とした経済成長の実現を図っていくものと思われます。

平成23年度の地方財政計画では、地方税収は増額となるものの、地方交付税と臨時財政対策債を合わせた実質交付税は減額となるなど、地方自治体にとっては依然厳しい状況にあると言えます。

このような中、本市においては景気回復のおくれによる税収の低迷や社会保障費の伸び、さらにこれまでの景気対策に伴う市債残高の増加など、大変厳しい財政状況の中、持続可能な行財政運営の確立に向け、市民の視点に立った事務事業の見直しに取り組まれることを評価するものであります。

歳出面においては、松南小学校の建設工事に着手、朝日小学校についても造成工事の進捗を図るとともに、各小学校の耐震、耐力度調査を実施するなど、義務教育施設の整備を図るほか、小学校高学年を対象とした「感性のびのび宿泊体験事業」により道徳心を養い、郷土愛をはぐくみ、地域間交流の推進を図るなど、次代を担う子供たちの教育の推進を図られています。

また、生涯学習の活動拠点として、公民館に附属する軽体育館の整備に取り組むものであります。

さらに、自然遺産の保護と活用を図るため、世界ジオパーク認定を目指し、記念講演やシンポジウムを実施し、認定に向けた取り組みを進めていくこととしております。

交流による一体感のまちづくりとしては、白山ろく地域の過疎化の歯どめと活性化を図るため、住民と協働で地域づくりを推進するとともに、耕作放棄地の有効活用を図り、里山体験事業の実施による世代間交流や、地域間交流を進め、交流人口の拡大を図るものであります。

福祉面においては、民間活力を活用した地域密着型特別養護老人ホームの整備に着手するほか、放課後児童クラブの施設整備を行うとともに、指導員の待遇改善を図り環境整備にも努めることとしています。

そのほか、職員の定員適正化計画に合わせた白山ろく支所組織の一部集約化を図るなど、効率的な行財政基盤の確立に向けた取り組みに対し賛意を表するものであります。

今後は、その執行を速やかに図られるとともに、徹底して効率的で効果的な行財政運営に努められることを期待するものであります。

その他、全議案に関しましても市民の一体感の醸成と地域間交流の促進を図りながら、市民の幸せに向け、市民福祉の向上と安全・安心のまちづくりを強く推進されることを確信し、賛成の意を表して私の討論といたします。